

福岡観世会定期能

平成二十八年(第二回)



能 楊貴妃
ようきひ
 多久島利之
としまのり

狂言 見物左衛門
けんぶつざえもん
 野村 万禄
のむら まんろく

能 殺生石
せつしようせき
 森本 哲郎
もりもと てつろう



とき 12月3日(土) 午後1時始〔開場:正午〕
 ところ 大濠公園能楽堂
 入場券 当日券(自由席) 7,000円

発売所 大濠公園能楽堂事務所 092-715-2155

※指定席は2回綴券のみの発売となります。

※2回綴券をお買い求め頂いた方へ

◎ 2枚のうち、1枚は5月・12月のどちらの公演でもご利用いただけますが、もう1枚は12月公演のみのご利用となります。

◎ 指定席の綴券を12月公演で2枚使用される場合、1枚は自由席券としてご利用いただけます。



海 士 木月 晶子
 籠太 鼓 長宗 敦子
 東 北キリ 菊本 美貴
 錦 木キリ 多久島法子
 川原 桂子
 菊本 澄代
 今村 宮子
 松田美栄子

能

楊貴妃 多久島利之
 森 常好
 飯坂 信行
 飯田 清一
 森田 徳和

間

後見 山口剛一郎
 大槻 文蔵
 今村嘉太郎
 久保誠一郎
 坂口 貴信
 今村 一夫
 鷹尾 維教
 坂口 信男
 観世 清和
 今村 嘉伸

地謡

見物左衛門

仕

野村 万禄

狂言

兼 平 山本 章弘
 松 風 観世 清和
 鉄 輪 大槻 文蔵
 今村嘉太郎
 今村 一夫
 鷹尾 維教
 久保誠一郎

地謡

△休憩十五分▽

殺生石

白頭

能

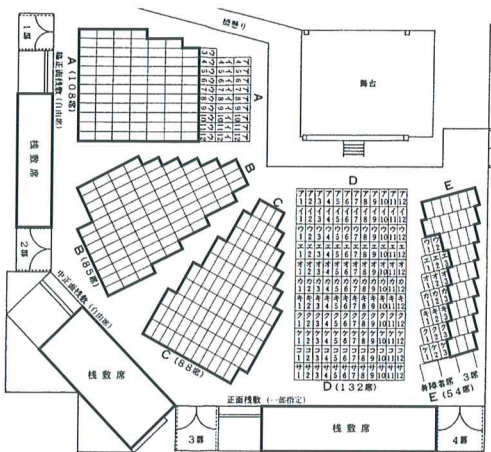
森本 哲郎
 森 常太郎
 飯坂 保行
 飯富 章宏
 吉谷 潔
 相原 一彦

間

後見 坂口 貴信
 山本 章弘
 井内 政徳
 山口 敏弘
 武富 昭
 今村 嘉伸
 鷹尾 維教
 今村 一夫
 坂口 信男

地謡

附祝言



※番号が書かれていない席は自由席です
 ※棧敷席は自由席です

平成二十九年 度 予 告

五月二十日(土)

十二月二日(土)



◆楊貴妃・臺留(うてなごめ)
 唐の玄宗皇帝と楊貴妃の絶く難い愛情を、哀愁を帯びた美しい風情を湛えながら格調高くつづられた曲です。
 玄宗の命により、死した楊貴妃の魄の在りかを探し続ける方士(ワキ)は、とうとう黄泉の国にまで行き常世国逢葉宮に赴きます。そこで帝の勅使だと申し出ると、楊貴妃(シテ)が姿を現します。帝の悲嘆ぶりを聞くと、楊貴妃もまた自らの恋慕の思いが深いことを告白するのです。比翼の鳥連理の枝となることを誓い合つた七夕の晩のこと、自分のもとに仙女であったことなど語り、帝が驪山宮で作つた霓裳羽衣の曲(序之舞)を舞う楊貴妃方士に形見の鏡を渡し、その去りゆく姿を見送りながら、浮世の儚さに伏し沈みます。
 楊貴妃の住まう太真殿は小宮の作り物で、玉の鏡は天冠の立て物を使います。
 臺留の小書があると、シテが作り物へ入り、残り留(地謡)は終わり、唯子が残つて奏する。で、趣深く最後の場面に色を添えます。

◆見物左衛門
 見物左衛門とは、見物人や冷やかしの客を人の名前らしく言つたものです。
 京都は深草祭にやつてきた見物左衛門の一日の顛末を、どうぞご覧下さい。祭へ向かう道中や流鏑馬見物などの様子はいかにも楽しげです。その後も次々と起こる出来事を、一人狂言で演じます。
 和泉流にしかない演目でございます。

◆殺生石・白頭(しろがしら)
 栃木は那須高原に現存する殺生石。どこなく不気味さが辺りに漂っています。
 玄翁(ワキ)が那須原にさしかかると、石の近く飛んでいた鳥が息絶えて落ちる場面を目にします。そこへ登場した里女(前シテ)が、これは人畜を害する殺生石だと注意します。更に僧の尋ねに女は答えます。昔鳥羽院に取り入つた才色兼備の玉藻前は、帝を害するために近づいた女は答えます。昔鳥羽院に取り入つた才色兼備の玉藻前は、帝を害する。しかしその執念が殺生石となり、私はその石の辺りまで逃げてきたが、成敗されてしまった。しかしその執念が殺生石となり、私はその石の辺りまで逃げてきたが、成敗されてしまった。後悔のために姿を現すと告げて消えました。△中入▽供養が始まります。僧が引導を渡すと野干(後シテ)が姿を現し、阿倍泰成に正体を見破られ那須野原に逃げたが、三浦介上総介に射て殺された顛末を明かします。そして、高僧に供養されるからには、もう決して悪事はしないと誓い消えてゆきました。
 前場は白昼夢をみているような雰囲気、後場はきびきびとした動きで、心躍らせる対照の妙がございます。白頭の小書が付く本日は、後シテが白を基調とした出で立ちにて、謡にもはつきりとした緩急がございます。
 (記・菊本澄代)